

昭和51年度第1回シグマ委員会幹事会議事録

日 時 昭和51年5月17日(月) 13:30~17:30
場 所 日本原子力研究所東海研, 研2棟222号室
出席者 塚田(主査, 原研)
久武(東工大), 松延(住友), 飯島(NAIG), 更田, 五十嵐,
田中(茂)(原研)
オブザーバ 菊池(康), 浅見(哲)(原研)
欠席者 百田(東北大), 中嶋(法政大), 大竹(動燃), 桂木(原研)

配布資料

1. 前回議事録
2. シグマ特別専門委員会特別幹事会議事録
3. 昭和51年度実行計画概要
4. 昭和52年度概算要求概要
5. Memorandum from Dr. J. J. Schmidt

議 事

1. 主査改選について

資料(2)により選出方法の確認を行い, 次回の本委員会で投票を行うこととした。また, 本委員会に2/3以上の出席がないときは, 欠席者に不在投票をしてもらうことにした。

2. 昭和51年度実行計画

資料(3)にもとづいて更田委員より説明があった。とくに委託費の配分について討議が行われ, 核データ研と関係者の間で取扱いをつめることになった。

3. 昭和52年度概算要求

資料(4)にもとづいて更田委員より説明が行われ, 核融合部よりの要請によ

り、A&Mデータの整備として、1,000万円を要求したことが紹介された。

4. 原子分子データについて

更田委員より、A&Mデータに関するIFRC, IAEA等の最近の情勢、原研でも51年度からapplication orientedのA&Mデータ懇談会が発足したこと、52年度から原研としても積極的に取組むことになったこと、当面は核データ研が事務的な面倒をみること等の説明があった。これに関して、シグマ委員会との関係、プラズマ研との関係等についての意見交換があった。

5. 昭和52年度以降の委員会組織のあり方について

塚田主査よりシグマ本委員会の問題点、学会委員会と原研委員会との関係等について説明があり、将来、核データ研が核データ・センターへ移行したときの組織ならびに活動についての構想が述べられた。シグマ本委員会は基本的なstrategyのdiscussionを行う年1~2回の会合、シグマ幹事会は具体的な審議機能のあるsteering committeeとし、月~1回の会合、専門部会は形式的には本委員会の下につくが、実質的にはデータ・センターの下につくようにしたらどうかとの説明があった。これに対し自由討議を行った結果、この問題をad-hoc committeeで討議してもらうよう次の本委員会で提案することになった。

6. 国際会合

更田委員より本年度の国際会議の開催予定ならびに出席予定者の紹介があった。

CCDN-CPL Joint Committee 7/8 更田委員出席

Specialist Meeting of Fast Neutron Fission Cross Sections
of ^{233}U , ^{235}U , ^{238}U and ^{239}Pu 6/28~30 田中委員出席

Intern. Conf. on the Interactions of Neutrons with
Nuclei (Lowell) 7/6~9 田中委員出席

19th Meeting of NEA Nuclear Data Committee

9/20~24 塚田主査出席

出席予定者から、注文があったら出して欲しい旨の発言があった。

7. 研究会について

更田委員より、JENDLを中心にした研究会を行いたいとの提案があり、JENDL-1の報告会として12月上旬に行うことを提案することになった。

8. 人 事

専門部会のW.Gのメンバー・リストの確認を行った。

9. 本委員会オブザーバー・リスト

前々回の幹事会からpendingであったオブザーバーの扱いについて討議した結果、本委員会の議事録をJNDCニュースにのせること、W.G.のリーダーが本委員会に出席することを明示することとし、とくにリストを作製しないで提案することになった。

10. 本委員会の議題について

本委員会の議題として、上記のもの以外に

a) 各専門部会報告

b) JENDL-1について(compilation & benchmark test)

c) IAEA会合(NSPD& CPND)報告(田村務氏)を予定することとした。